様式3

学校番号 36

令和 4 年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立須恵高等学校

自己評価

学校運営計画（4月）			評価（総合）
学校運営方針	「校訓」・「五省」・「五心」を教育活動の根幹に据え、主体性・自律性の涵養を重視して、生徒の主体的な活動を促し、新しい時代に対応した教育活動を、進取の気風の下に創造することで、敬愛の精神と国際的視野を備え、何事にも高き理想をもって挑戦し、地域やグローバル社会で活躍する人材の育成を目指して、高い志と確かな学力・体力・豊かな心を育む。		A
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
・生徒に寄り添う姿勢や安全で安心な学校づくりの感覚が浸透しつつある。 ・授業改善を掲げ、評価の在り方を軌道に乗せることで、生徒の学びの変化につなげる。 ・自己肯定感、自己有用感をさらに高めることで、生徒に自信をつけさせていく。 ・隣接する三つの町との連携協定をさらに拡充し、都市圏における地域との協働のあり方を探求する。	(1) 安全で安心して通える学校環境づくり	・人権尊重を基盤に据えた教育活動の推進と道徳心の涵養 ・学校安全・学校衛生に係る取組の徹底	
	(2) 自律的な学修者の育成を念頭においた授業の展開	・学力の三要素のバランスある育成をめざす授業改善とそのための観点別評価の推進 ・ハイブリッド教育とICT文具を活用した個別最適化教育の構築	
	(3) 自尊感情や自己肯定感を高める生徒指導の推進	・生徒の主体的取組を促進し、自律性の伸長に資する学校行事・生徒会活動・部活動の運営 ・自分が大切にされていると生徒が感じるエンカレジングな生徒支援の推進	
	(4) 一人一人の生徒のキャリア形成と自己実現に資する進路指導の構築	・在り方生き方を考え、主体的に自己の進路を選択する力を育むキャリア教育の強化 ・生徒の希望と適性を生かす進路実現に向けた丁寧な出口指導の展開	
	(5) 認知的能力と非認知的能力のバランスある育成の重視	・学習の基盤となる基礎的読解力の養成 ・「総合的な探究の時間」を中心に、校内・校外での体験的活動を重視した生きた学びの創造	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務	授業改善の推進と生徒の確かな学力の定着	知識・技能の習得はもちろんのこと、思考力・判断力を育成する授業改善にむけた取組を更に推進する。	A	B	A	・学習支援週間を効果的な学習機会とするための手立てを他分掌とも協力しながら検討する必要性がある。 ・思考力・活用テストの運用について、教科の意見を吸い上げながら、よりよいものへと再構築していく。 ・授業改善については、各教科ごとに推進していく体系つくりを行う。
		学習支援週間と連動して、生徒が日ごろの学習状況の振り返りを行い、自らが学びに向かう姿勢を改善できる機会を設定する。	B			
		観点別評価及び思考力・活用テストにより教師、生徒双方向からの授業改善を進める。	B			
	遅刻者・欠席者の削減	各学年と連携・情報共有を図りながら、生徒が主体的に参加できる授業を展開するなど存在意義を高める手立てを講じる。	A	A		・欠席・遅刻・早退については、これからも現在の良好な状況を維持しながら推移していけるよう、担任・生徒・保護者の連携を図っていく。
		生活・学習習慣を見直す機会を設け、遅刻者の削減を目指す。	B			
	新学習指導要領の周知徹底	新教育課程の編成に基づき、教材作成等を推進する。	B	B		・次年度が新課程の2年目となることもあり、さらに生徒の主体的な学習活動が実施されるような工夫を行う。
		各教科・科目において、新学習指導要領の理解を深める。	B			
	校務支援システムの効率的な利用の推進	情報化推進課と連携を図り、出席管理・成績入力に関わる作業の効率化や教員の負担軽減を図る。	A	A		・校務支援システムについては、教員が使いやすいものとなるよう、研鑽を重ねていく。
	日程調整、時間割の円滑な運用	各分掌と連携を図り、日程調整を円滑に行う。	A	A		・時間割については、円滑な運用ができるように、早めの提示を心がけていく。
		職員の出張・年休、学校行事にともなう時間割変更を円滑に行う。	A			
広報	キャッチフレーズ「あなたの夢によりそいます」を掲げた広報活動の展開による1.4倍以上の志願倍率の確保	オープンスクールを3回（8・10・11月）と部活動見学デイ（10月）を実施する。集約等はGoogleフォームを活用し、8月はオンデマンド型を継続する。	A	A	A	すべてのオープンスクールにおいて参加者数がそれぞれ過去最多となり、近年の広報活動が効果的な内容であったと考えられる。授業紹介の充実を図るなど、他業務とのバランスを考慮しながら新たな広報資料や内容を作っていく必要がある。
		生徒をピックアップした動画を作成するなど、広報資料を充実させる。	A			
		組織的・計画的に中学校訪問を実施する。	A			
	普通科進学校としての「進取」に則った特色のアピール	Classiを活用してHP掲載までの流れを整備し、積極的な情報発信を行う体制を維持する。	A	A		部活動や学校行事の情報発信の流れは校内に定着し、導入以前よりもホームページのアクセス数が1万回程度増加している。進路相談も円滑に対応できたため、継続していきたい。
		第4学区進路相談事業（8月）の円滑な開催に向けて取り組む。	A			
企画	式典等の企画・運営を効率化	式典における業務内容を改善し、効率化を図る。	A	B	B	入学式ではスムーズに運営できたと考える。PTA活動に関してはコロナ禍で活動が制限される中、会議等でできることを議論した。過去の活動にとらわれることなく柔軟に活動できるよう今後も工夫が必要がある。
	PTA活動の効率化	生徒支援のために、PTA役員・委員会が活性化できるよう組織としての活動内容を創意工夫する。	B			
	職場環境の整備・改善	職場環境を整えるために全ての業務を全職員で分担できるよう企画する。	B			

学校関係者評価

評価（総合）	自己評価は
A	A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である

項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	・非常に落ち着いた教育活動が行われていると感じる。
A	・オープンスクールの参加者が過去最多とあり、地域や中学生の関心が高まっていると感じる。 多くの機会を設け、学校を知ってもらうことができており、大変良いと思う。 ・志願者の増加は評価できる。今後とも広報活動に力を入れてもらいたい。
B	・次年度はコロナの状況も変化していくと思うので、PTAも学校行事などに協力していきたい。

生徒	安全で安心な学校環境づくりといじめの撲滅	月1回のアンケートの実施、面談などを通していじめの未然防止・早期対応に取り組む。	A	A	A	・今年度同様、いじめ等の早期発見・対応の徹底をする。 ・職員全体での効果的な登下校指導のシステムを構築する。 ・本校の実情に合った、より効果的・タイムリーな講演会等を企画・立案する。	A	・体育祭を見させてもらったが、大変素晴らしく感激した。 ・通学中の自転車マナーについて、自転車事故の加害者にならないためにももう少し指導をお願いしたい。 ・自転車通学のヘルメット着用についてはどのような方向で指導していくのか。→努力義務ということで着用を推奨していく予定である。 ・部活動の加入率を目標値の80%まで伸ばしてほしい。
		全職員による効果的な登下校指導のシステム構築を図る。	B					
		交通安全指導、非行防止教室等、講演会のより効果的な企画・立案を図る。	A					
	生徒会活動・部活動の活性化	部活動加入率向上のための活動の見直しを図り、部活動加入率80%以上を目指す。	B	A		・部活動加入率を高めるとともに、活動時間や下校時間等の検討を含めた部活動の活性化に向けた取組を行う。 ・生徒会・委員会活動のさらなる活性化を図り、生徒主体で学校の課題解決を行う体制を構築する。		
		生徒会を中心に、生徒会行事の工夫改善を図り、生徒の主体的な活動を支援する。	A					
		生徒会、部長会を定期的に開催する。	A					
	ボランティア活動への積極的参加	生徒会を中心に学校全体をあげてボランティア活動への参加を呼び掛け、多くの生徒の積極的参加を目指す。	A	A		・コロナ禍において例年より機会が減少したが、状況に応じて従前並みの活動が実現できるよう取り組む。 ・ボランティア活動等の参加が、生徒の進路実現に結びつくような工夫・改善を行う。		
		全校生徒が何らかのボランティア活動に参加するような取組を実施する。	B					
	生徒の自律的態度の育成	校則の検討等、生徒の自律的態度の育成に向けた支援を行う。	A	B		・制服の検討と合わせて、生徒主体の時代に即した校則等の見直しを継続的に検討する。 ・生徒会を中心によりよいスマートフォンの活用法の徹底を図る。		
		生徒会を中心としたスマートフォン等の適切な利用法の確立等、生徒の規範意識を高める支援を行う。	B					
	人権尊重に視点をおいた教育活動の創出と道徳教育の推進	人権教育HRだけに止まらず、生徒支援委員会とも連携し、日頃からの指導が徹底される取組を行う。	A	A		・生徒会を中心に生徒の人権意識向上を図る取組を行う。 ・職員研修会等、職員の人権意識向上を図り、学校全体での取組につなげていく。		
		生徒の人権意識の涵養を図る取組を充実させる。	A					
保健	生徒の情報の共有と組織的な連携の強化、及び生徒・保護者によりそう支援体制の確立	新入生の情報交換のための中学校訪問を実施する。（入学前3月）	A	A	A	養護教諭、特別支援コーディネーター、SC（近藤先生）と生徒情報について、詳細に把握することで、適切な支援計画を立てることができた。また、生徒情報連絡会で、支援が必要な生徒に関する情報を教員間で把握することができたため、円滑に生徒支援を行うことができた。	A	・今後も、生徒一人一人をよく見て、個に応じた指導を行っていただきたい。
		個人面談週間を実施し、生徒の状況把握を行う。（4月）	A					
		生徒情報連絡会を実施する。（5月・9月）	A					
		特別支援の視点に立った学校環境の整備充実を図る。	A					
		行事前の健康相談、性と心の健康相談等、適宜スクールカウンセリングを実施する。	A					
	美化委員会・保健委員会の活性化	保健委員会による健康・安全意識の向上のための取組を企画、実施する。	A	A		定期的に委員会活動を実施し、生徒に役割を与えることで、各委員会責任感をもって活動することができた。		
		美化意識の向上のための取組を企画、実施する。	A					
	全体的な環境美化意識の啓発	清掃区域の用具の整理および用具の充実を図る。	A	B		保健課として、生徒が自主的・自発的に校内美化に取り組む活動が少なかった。行事前だけでなく、定期的に清掃ボランティアを実施するなど、生徒が参加できる環境づくりを検討したい。		
		自主的・自発的な校内美化の在り方を検討する。	B					
		古紙回収やペットボトルキャップの回収の推進等、リサイクルを推進する。	B					
		清掃ボランティア活動の活性化を図る。	B					
	生徒、保護者によりそう支援体制の確立	特別支援の視点に立った学校環境の整備、充実を図る。	A	A		養護教諭と連携を図り、SCを活用しやすい環境ができた。		
地域	須恵高校型の地域探究カリキュラム調整、地域のソーシャル・キャピタルの強化に向けた制度整備	連携協定4町を中心に地域と連携した地域交流・地域貢献活動を推進する。	A	A	A	地域総合探究においては各学年で計画通りに進行することができている。小学生との交流会については昨年に引き続き中止となってしまったが、コロナ禍の完全収束が見込めない現状を踏まえ、小学生との交流会の実施形態について考えていく必要がある。また、ホームページを通じて募集をかけた、コミュニティレンジャーを中心とした地域へのボランティア活動については、積極的に各自治体のボランティアにおいて活躍していたため、次年度も継続的に実施していきたい。さらに須恵中学校の中体連賞状の揮毫や、地域での書道パフォーマンスなど、部活動による地域貢献も大いに推進することができた。	A	・地元須恵町の報告会や中学校の評議員会でも中学校と高校、地域と高校の連携がよく取れているの報告があっていた。大変素晴らしいことであり、今後も連携を継続していただきたい。 ・小学生との交流会も3年実施できていないので、形を変えてでもなんとか実施できないものか。 ・18歳成人もあり、選挙などにも関心を持ってもらいたいと考えている。須恵町選挙管理委員会からの派遣での講習会等を検討してもらいないか。
		選択類型に合わせた企業および地域課題の探究に取り組むことで、地域の将来を俯瞰できる人材の育成につなげる。	A					
		高大連携により、上級学校等に進学後も継続して探究的な学びを継続できる環境づくりを行う。	B					
		コミュニティーレンジャーの活動について、学校ホームページ上での活動募集を行う体制を整備する。	A					
		「小学生との交流会」についてPTAと連携しながら、情報機器を活用した運営体制の効率化と整備を図る。	B					

進路	進路実現に向けた組織的な進路指導の構築	生徒の進路実現に向け、各学年と連携を図り、実状に応じた進路行事（説明会・講演会等）を実施する。	B	B	A	入試説明会については、例年通り滞りなく実施することが出来た。ただ、当初に予定されていたもの以外については計画・実施まで至らなかった。その時に必要な説明会・講演会等については、常に各学年と話し合いながら要望に応じて計画したい。	A	・キャリアガイダンスなどへ同窓生を招聘することはできないか。地元で活躍している同窓生を活用してもらいたい。
		五省ゼミの時間を活用し、面接や小論文指導、放課後課外（3年）を効果的に実施する。	B					
		論理コミュニケーションを円滑に実施し、生徒の言語活動の育成・充実を図るとともに、受験方法として小論文・作文に取り組ませる。	B					
		資格・検定試験についての情報の収集、生徒への伝達に努める。	A					
	在り方生き方を探求するキャリア教育による社会人・職業人としての自立の促進	キャリアガイダンス等を円滑に運営し、生徒の職業観の育成、進路選択に対する意識の向上を図る。	A	A		5月に実施した「SUEキャリアガイダンス」も円滑に運営することができ、生徒の反応も上々だったように思う。ただ、反省事項も多くあったため、次年度に引き継ぎたい。五省ゼミプラスについては、活発な実施とは行かなかったため、各学年から意見を吸い上げて効果的な取り組みを提案していきたい。		
		五省ゼミプラスの時間を活用し、上級学校の講義や説明会を実施し、個別最適化された進路支援を実施する。	B					
		「Classi」を活用したポートフォリオ、キャリアパスポートの作成を行い、主体的に進路決定する力を育む。	A					
	進路情報の提供・活用・発信の充実	模試試験結果データの共有や進路結果分析を行うとともに、生徒自身にも進路実現に向けた当事者意識を持たせる。	A	A		担当の先生方が、円滑に業務を達成してくださったため、効果的に運用できた。次年度に引き継いでいきたい。		
		進路のしおりの内容を精選し、ホームルーム活動等で効果的に活用する。	A					
		校内の掲示板や進路情報スペースを積極的に活用し、生徒への進路情報提供を充実させる。	A					
		ホームページを通して、進路ニュースの発行や、本校の進路に関する情報を、保護者や地域に向け発信する。	A					
情報	ICT機器活用促進のため環境整備	ICT機器の校内整備状況の共有に合わせ、効果的な使い方のシェアを行い、更なる活用促進を目指す。	B	A	A	新たな学びの実践研究等を通して、先生方に幅広い選択肢を提供できた。ICT機器も充実してきており、更なる活用推進が求められる。	A	・ICT機器の有効的活用についてさらに研修を深めてもらいたい。
		「Classi」、「GoogleClassroom」、「Microsoft365」等の環境を整え、授業で幅広い選択肢を提供する。	A					
	学校全体でのICT教育の推進	ライブ配信やオンライン授業。非対面での集会等が円滑に動くよう学校全体をサポートする。	A	A		集会等でのライブ配信や校務支援システムは情報課の手を離れ、それぞれの分掌で操作・管理いただけるようになった。また、県からのChromebookの配備に伴い、1人1台配布のための規定や管理体制を構築し、運用できる状態まで整備を進めている。Chromebook等を使う上で必要となるクラウドの理解については次年度の課題といえる。		
		情報関係の業務をすべて情報課の先生でやってしまうのではなく、なるべくマニュアル化を行い、すべての先生で取り組める環境を整備する。	A					
		生徒が同一の環境でICT教育を受けられる環境旁に向けてさまざまな取り組みを行っていく。	A					
		全生徒・職員のクラウド利用に関する知見の向上とクラウドの効果的な活用(授業利用・評価等）に向けた支援・研修を行う。	B					
	情報漏洩や紛失、焼失のない、適切な情報管理	職員・生徒の個人情報の取り扱いについて理解を深め、個人情報の保護を徹底する。	B	B		1月に著作物に関するアンケート調査を全教員向けに行い、情報リテラシーの向上に努めた。適切な情報管理という面では、パスワード管理には教員・生徒共に課題がある。		
		授業で用いる著作物等についての調査を進め、生徒・職員ともに安心安全な環境での教育の推進をサポートする。	A					
研修	生徒の学校満足度を高めるための教育活動の在り方の探究と、他の校務分掌との連携による生徒の実態に沿った取組の創出	授業改善に向けて、各校務分掌・各教科・各課との連携強化と、職員研修の内容改善等、教育活動の支援の充実を図る。	B	B	A	ICTの活用を前提とする授業改善については、情報課を中心にさまざまな提案をしていただいた。先生方一人一人の技量が上がりICT活用が目的ではなく日常的な手段として定着しつつある。来年度も情報課と連携を取りながら、新たな取り組みや効果的な活用法について情報共有を図りたい。	A	・先生方も大変忙しいと思うが、研修により生徒の学習意欲が上がるように取り組んでいただきたい。
		情報課と連携し、授業改善に向けた新たな取組を提案し、公開授業週間等を活用して実践の支援を行う。	A					
		「Classi」・「Googleclassroom」等を活用し、生徒の主体性な学習活動に対する支援を行う。	B					
		研究紀要の内容充実を図り、教育実践を共有する。	A					
	校内での多様なアンケート等による教育活動の把握	学校満足度調査・授業改善アンケートを実施し集計結果を共有することで生徒支援の工夫・改善を行う。	A	A		集計結果の共有については予定通り実施できたが、その活用についてはやや課題が残った。		
	図書館利用の活性化を促す	図書委員による読書推進のための取り組みを充実させる。	A	A		学校司書、教員、図書委員が密に連携を取り図書関連の様々な行事を滞りなく実施できた。ビブリオバトルへの参加や電子書籍の導入など新たな取り組みも行ったので来年度以降も継続していきたい。		
		効果的な選書と廃書を行い、蔵書の整理に努める。	A					
		図書館の環境整備に努め、利用マナーの向上と利用の促進を図る。	A					
		広報活動を充実させ情報提供に努める。	B					

第一学年	自ら進んで学びに向かう生徒の育成	学習支援週間や五省ゼミを活用し、学習習慣の定着を図り、各教科の知識・技能の習得を図る。	B	B	B	・学習習慣が定着し、実力を伸ばし始めている。しかしながら、家庭学習習慣に関しては、定着している生徒とそうでない生徒の二極化が見られる。「学習の仕方」を含め、個別に対応しながら、学年全体で学習習慣が確立できるように務める。 ・模試やテストについて、事後指導はできていた。事前指導を丁寧に行い、実力の伸長を図りたい。	B	・高校に入学して学校生活にも慣れてきたと思う。色々な取り組みをしているのは素晴らしい。次年度は中堅学年として学校を支えてほしい。
		模試や思考力活用テストの事前・事後指導を行い、次に向けての課題を明確にして、自主的に取り組めるようにする。	B					
		模試の分析を行い、各教科指導に活用し、学力の向上を図る。	B					
	基本的生活習慣の確立	自らの生活習慣をコントロールし、身の回りのことは自分でできるようにする。	B	B		・全体的に挨拶や掃除が徹底できたように思う。さらに、気持ちの良い挨拶や、隅々まで行き届いた掃除ができるようにする。 ・登校時間ぎりぎりの登校や提出物の期限遅れに課題が残った。2年次の前半までには、時間に余裕をもった行動ができるようにする。		
		礼儀や立ち居振る舞いを常に意識させ、周囲に必要とされる人材を育成する。	A					
		挨拶や時間の厳守、掃除の徹底など、自ら判断し、行動に責任をもてるようにする。	B					
	職業観や自分の進路に対する意識の涵養	総合的な探究の時間やキャリアガイダンスを通して、職業観を育み、適切な進路目標が設定できるようにする。	B	B		・1年間を通した、キャリア教育ができなかった。2年次では、進路行事と関連付けながら、進学先の違いや入試形態など継続してキャリア教育を行えるようにカリキュラムをつくりたい。		
		HRや五省ゼミを活用し、継続的なキャリア教育を行う。	B					
	成功体験の積み重ねと自己肯定感の高揚	他者と協働して学校行事等に取り組み、多くの成功・失敗体験を通して、客観的な判断力や実行力を育成する。	A	A		・学校行事やボランティア活動に積極的に参加する生徒が多く見られた。振り返りや教員からの声掛けを通して、自己肯定感を高めていきたい。 ・ポートフォリオが蓄積でき、振り返りがきちんとできていた。		
		行事ごとのポートフォリオを蓄積し、達成感を味わうとともに、自己肯定感を高める。	A					
	教員、分掌、事務室の協力体制と保護者との連携強化	学年団や各分掌・事務室との連携を図る。	B	A		・担任会や、教科担当との連携は密にできていたと思う。副任の先生方との連携のための会議があまり開催できなかったので、次年度は学年会や副任会を開催していきたい。 ・学年通信の発行はできていたが、後半になるにつれ、配信頻度が低くなってしまった。業務分担をしながら、きちんと発行していきたい。		
		学年通信の発行やClassiでの情報配信を通して、保護者との連携を密にする。	A					
		配慮を必要とする生徒に対して、関係職員や各関係機関との連携を図る。	A					
第二学年	「五省」を土台に心身ともにバランスのとれた生徒の育成	礼儀や時間の管理、TPOに応じた立ち居振る舞いを常に意識させ、社会に必要とされる人材育成に力を入れる。	B	B	B	・様々な場面で成功体験を積めるような環境を設定し、生徒が自尊感情や自己肯定感を高められるよう工夫する。 ・学校生活に限らず日常生活においても成年年齢に達することを念頭に置いた指導を行い、生徒の自立度を高める。 ・学校行事やHR活動、授業を通して「五省」の完成を徹底し、生徒が自信をもって卒業できるよう学年全体で働きかける。	B	・次年度は最終学年として第一希望進路の実現に全力で取り組んでいただきたい。 ・最上級生として学校行事などをぜひ成功させてほしい。
		自立に向け、知識や技能の習得、生活習慣を自らコントロールする能力を高める。	B					
		様々な教育活動の中で多くの成功体験を積ませ、自尊感情や自己肯定感を向上させる。	B					
		配慮が必要な生徒の支援体制を整える。	A					
	リーダー育成およびフォロワーシップの醸成	学年生徒会をはじめ、文化祭、体育祭、セミナー研修等におけるリーダーを早期に選出し、指導に力を入れる。	A	A		生徒会を中心に、生徒が自ら活動できる機会を増やし、積極的に参加できる環境を整える。また、最終学年として学年を超えてリーダーシップを発揮できる生徒を数多く育成するとともに、フォロワーシップの大切さを再認識させるような働きかけをしていく。		
		修学旅行や周年行事等様々な活動に積極的に参加し、協働の重要性を理解させるとともにリーダーシップ・フォロワーシップについて考えさせ、双方の伸長を目指す。	A					
	学力向上と同時に進路実現への意欲向上を図る	進路探究に主体的に取り組ませ、早期の目標設定とその実現に向けた環境作りを行う。	B	B		進路実現に向けた情報発信をより充実させ、面談等を通して具体的に動けるよう学習環境を整える。その際、学習支援サービスも効果的に活用させる。		
		学習支援サービスや模試分析、五省ゼミを活用し、学力向上につながる学習方法を確立させる。	B					
	教員間の連携強化	学年団、分掌、事務室との連携を深め、円滑な教育活動を実践する。	A	A		学年団の意思疎通を丁寧に行うと同時に、他学年や各分掌、事務等との連携をより一層深め、円滑で効果的な教育活動を実践できるよう、先を見通した早めの企画立案を心がける。		
		保護者との連携を密にし、効果的な生徒指導を目指す。	A					

第三学年	第一希望進路の実現を図ることができる学力保障	ITリテラシーを身に付けるとともに、ICT文具を積極的に活用し、学びの活性化を図る。	B	B	A	3年後の進路実現に向けて、1年次での基礎学習の徹底を図り、進路部と連携しながら取り組む。	A	・体育祭や文化祭を見たが、3年生がリーダーシップを発揮して素晴らしい行事を作り上げていると感じた。
		進路実現に向け情報の共有を図り、個々に応じた支援を行う。	A					
		学習支援サービスを活用とした、学習の記録やポートフォリオの記録、模試等の事前・事後学習の徹底を図る。	C					
	須恵高校「五省」の実践による心豊かでたくましい生徒の育成	五省の具現化を目指し、思いやりのある行動ができるようにする。	A	A		社会で逞しく生き抜ける人材を目指し、自己肯定感を高め自走できるようサポートする。		
		成人に向けての規範意識を確立させるとともに、自立する力を身に付けさせる。	A					
		行事や授業を通して、自己肯定感を高め自律性の伸長を図る。	B					
	最上級生としてのリーダー育成とフォロワーシップの支援	学校行事（岳城祭・体育祭等）を生徒主体の運営を進め、コミュケーションスキルを養成する。	A	A		1年次より学年生徒会を発足し、生徒主体で活動できる場を多く設定してリーダー性を高める。		
		本校創立40周年に向けて、生徒会や部活動等を中心に帰属意識を高める場面をつくる。	A					
		自他の美点を見ることや前向きな思考・発言ができるような声かけをして、明るく思いやりのある生徒を育てる。	A					
	多様性を認め、個性を生かしながら協働できる生徒集団の育成	他者を尊重しお互いを認め高めあう力を醸成し、個々に応じた支援を行う。	A	A		集団での繋がりや関わり方を学びながら主体性をもち、学校行事等積極的参加できる生徒の育成を図る。		
		多様性を認め協働活動を通し、個々の生徒の活躍の場を増やす。	A					
	教員・分掌・事務室との協力体制と生徒・保護者との連携強化	学年団、各分掌、事務室との連携体制を強化する。	B	A		情報の共有を図り、見える化を実現する。また、保護者との連携を丁寧に行う。		
		保護者との連携を密にし、安心・安全な学校生活を目指す。	A					
		経済的・社会的配慮が必要な生徒への支援体制を整える。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

本年度の重点目標の継続・発展・進化

・安全で安心して通える学校づくり
・自律的な学習者の育成を念頭に置いた授業の展開
・自尊感情や自己肯定感を高める生徒指導の推進
・一人一人の生徒のキャリア形成と自己実現に資する進路指導の構築
・認知的能力と否認知的能力のバランスある育成の重視

評価項目以外のものに関する意見

コロナ禍でこの3年は思うような取り組みができなかったと思うが、来年度以降は規制も緩和されていくと思う。さらに発展していけるように同窓会やPTAの力を借りながら教育活動がさらに充実していくことを望む。